

市民の想いをかたちに 大分県佐伯市大手前開発基本計画市民会議／都市計画道路の廃止から交通社会実験、これから（都市計画サロン）のご報告

1. 市民の想いをかたちに 大分県佐伯市大手前開発基本計画市民会議

大手前地区は、大分県佐伯市（人口約7万6千人）の中心市街地に位置しており、佐伯藩の時代から城下町の中心としてまた水運の拠点として栄えた場所です。地元百貨店が2002年に撤退した後は地区の多くが市有地となり、現在は空き地が目立っていますが、中心市街地再生の鍵を握る重要な場所でもあります。

このような大手前地区について、2013年度から市民と行政が一元となり「市民の想いをかたちに」を目標として、市民に望まれる地区の有り方を考えようと、専門家の力を借りながら、市民会議や協議会を開催しています。市民会議には公募により約75名の市民の方々が集い、ワークショップによる議論を2014年9月現在までに計7回重ねてきました。市民からは、既存の「バスターミナル」機能の維持と強化、多様な世代が交流できる「多目的なホール」や複合施設、憩いの場としての「広場」などが提案されています。現在は、市民から必要であると提案された各種施設の規模や配置、運営方法を検討している最中です（画像1）。

また、机上で議論を重ねるだけでなく、大手前地区で実際に何か取り組みを行ってみようと、市民会議メンバー主催による「鍋パーティ」（画像2）やワークショップに参加している高校生の提案による屋台を制作する「ものづくりワークショップ」（画像3）等も開催しながら、地区の利用の有り方を実現するために検討中です。今後も、2015年3月を目標に、市民の想いをかたちにする基本計画の策定と事業化に向けた取り組みを継続する予定です。

（文責:幹事 柴田久（福岡大学）・姫野由香（大分大学））



2. 都市計画道路の廃止から交通社会実験、これから（都市計画サロン）のご報告

日時：平成26年7月18日（金）

演題：「都市計画道路の廃止から交通社会実験、これから」

講師：渡辺一宏氏（竹田市総合まちづくりセンター長）

井手勝隆氏（竹田市建設課都市計画係 主査）

大分県竹田市の都市計画道路廃止や交通社会実験、都市再生まちづくり基本計画を紹介しつつ、歩行者を中心とするまちづくりに関してご講演いただきました。竹田市では都市計画道路を巡り、何十年間も議論が繰り返されてきましたが、この間に交通の状況も変化したこと、市は都市計画道路廃止へと舵を切り、「城下町の町割りを壊さずに歩道空間を確保する試み」が始まりました。市は2013年、1車線化による路側帯の幅員を確保する交通社会実験を実施し、結果として、歩きやすさやゆとり、安全性といった歩行者への効果が認められたものの、道路沿いの商店街との協力・連携には課題が残ったことや、実験前よりも路上駐車が増えたと感じる市民も多く、運転者のモラルに依拠する変化も生じたことが紹介されました。今後は歴史的風致維持向上計画の認定も活用し、各種事業展開が計画されているものの、地域と協働して人が歩くための施策が必要であるとの所見が示されました。さらに、城下町竹田の中心市街地再生に向けた取組みとして、「竹田市都市再生まちづくり基本計画」についてもご講演いただきました。基本計画では、①城下町の風情を活かした観光拠点づくり、②市民が日常的に利用できる中心市街地づくり、③歩いて楽しいにぎわい商業地づくり、④安心して快適に生活できる居住地づくり、の4つのまちづくり基本方針が掲げられ、10年間で30事業が計画されている、と紹介されました。センター長自ら「分散型まちづくり」と表現するこれからの竹田のまちの構造は、人を導きやすくする、楽しく巡りやすくする、という戦略によるとの興味深い視点が示されました。

（文責:幹事 永村景子（九州大学））

